

1	議席番号 9 番 増田 剛士 議員	開始予定時間 3 月 1 2 日 午前 9 時
【第 6 次吉田町総合計画、第 3 章の産業振興のまちづくりを基に今後の課題解決を目指す施策について】 第 6 次吉田町総合計画の第 3 章は、活力と魅力あふれる産業振興のまちづくりと題し、「まちの魅力を高め新たな賑わいを創出することでたくさんの来訪者で賑わうまちを実現するとともに、既存産業の活性化や新産業の創出、雇用の拡大と安定化に取り組むことにより、活力と魅力あふれる産業振興のまちを目指します。」と謳っており、9 分野で構成されている。 当町において、コロナ禍や気象異常、仕入れ価格上昇等の影響を受け厳しい経営を続けている事業者がどの産業にも少なからずあると認識している。 町は、各産業における課題を認識しこれらを解決すべく施策を計画に挙げている。 今回は、第 3 章の主に 3 つの分野について今後の課題解決を目指す施策について質問する。 (1) 賑わいづくり分野「施策 1 新たな賑わい拠点の整備」の東名吉田インターチェンジ周辺の交通結節点整備について、文中に人の流れを促進し、賑わい創出の一端を担うエリアの整備を進めます。とあるが、具体的にどのようなエリア整備を行う計画か。 (2) 「施策 3 都市間交流の推進」の八女市との多様な交流の促進において、イベント等への相互出店以外で、お互いの市民、町民間の交流は考えているのか。また、これまでのイベント相互出店以外での賑わいづくりの実績は。 (3) 水産業分野においては、しらす漁の漁獲量不安定、漁業者の後継者不足の課題についての施策は示されていないが、町が考える施策は。 (4) 商工業分野については、課題意識が薄く感じられる。雇用・就業対策分野にも関連するが、外国人の雇用が増加している現状（特に工業）についての課題や影響に言及がないが町の考えは。 (5) 既存商店の集客力低下への懸念として、インターネット通販市場の急速な成長を挙げているが、大型店舗の進出や後継者不足の課題もあると考える。町の課題認識とそれらに対する施策は。 (6) 商工業分野の主な成果指標について、小口資金利子補給金交付率があり、現状値 100%、目標値 100%となっている。主な成果指標としてこれは、優先度が一番高いということなのか、他に理由があるのか。 (7) コロナ禍、異常気象、物価高騰と国内はもとより、町内の産業も大変厳しい状況が続いている。町民の消費マインドを地元産品の消費に向かわせる地産地消の施策が産業振興の鍵でもあると考える。町の考えは。		

2	議席番号 7 番 平野 積 議員	開始予定時間 3 月 1 2 日 午前 1 0 時
【町長の施政方針について】 町長の施政方針についての一般質問の 3 月定例会での実施が、当局および議会の協議によって復活できたことに感謝いたします。 町長の施政方針は、令和 7 年度の主な施策の方向性を示すものであることから、本一般質問においては、いくつかの施策についてより深く掘り下げるために、以下の点について質問します。 (1) 住吉海岸防潮堤の整備について 参考資料の静岡新聞の記事について、吉田町の方針「『最大クラスの津波を通さない高さの盛土』を堤防の背後に整備する方針」と駿河海岸保全委が示した変更案「盛土の調達などの事業調整が進む場合は堤防の海側のみを補強する構造に、時間がかかる場合は背後側も含めて補強する方針」の詳細は。 (2) 県営吉田公園南側用地の整備について 同用地はレジャーとスポーツゾーンの形成を目指しているが、令和 6 年度に実施した事と令和 7 年度に実施する事は何か。加えて完成はいつと計画しているか。 (3) 吉田インターチェンジ周辺の整備について 「路線バス利用者の利便性向上を図るとともに町内外への人の流れを促進し、新たなにぎわいの創出を図ってまいります。」のうち、吉田インターチェンジ周辺の整備でどのようにして新たなにぎわいが創出できると考えているか。 (4) 多目的広場の整備について 多目的広場の整備が完了したとのことであるが、今後、海岸沿いの強風対策を進める考えはあるか。 (5) 吉田消防署の移転について 「更なる消防力の強化が期待できる適地に移転させる。」とのことであるが、消防力強化について検討する項目は。 (6) 防災訓練について 9 月の地域防災訓練において、夜間参集を計画とのことであるが、その時の町民及び自主防災会の動きと夜間参集防災訓練実施に至った経緯は。		

(7) キャッシュレス決済の推進について

「税金など各種公金の会計窓口における支払いについて、それぞれのニーズに合った決済サービスが選択できるようキャッシュレス決済対応レジを設置する予定でございます。」について、コンビニ支払いに対して、町にとって有利な事か。

(8) TCPトリビンスプランについて

「(前略)教職員の資質や能力の向上につなげ、児童生徒の学力向上を目指すこととしております。」について、第5次及び第6次吉田町総合計画の分野の主な成果指標に記載されている「全国学力・学習状況調査の県平均正答率以上の科目数の割合：小中学校ともに100%」を長年達成できない理由をどのように考えているか。

3	議席番号 8 番	山内 均 議員	開始予定時間 3月12日 午前11時
【湯日川水系・神戸川流域での水災害及び治水の再検証について】 地球温暖化が叫ばれ各地で豪雨災害が頻繁に発生するようになった。能満寺の北側を流れる神戸川でも、資料に示すように、令和4年9月23日台風15号、1時間雨量84ミリ、2時間雨量128ミリ。令和元年10月台風19号では1時間雨量48ミリ、2時間雨量87ミリ。平成25年豪雨では1時間雨量63ミリ、2時間雨量105ミリなどこれまで何度かの豪雨により住宅への床上・床下への浸水が繰り返されてきた。令和4年9月議会では、「神戸川冠水及び排水系統の見直しについて」神戸川沿いの住宅での土地への冠水、床上・床下浸水被害の対策や被害の解消の基本的な考えを聞いた。 また、2月17日には神戸川沿いの製茶工場や製茶販売の代表者から話を伺い、神戸川の氾濫によって何度か大打撃を受けていた事実を知った。 今回は神戸川流域全域での水害に対する町の新たな対策、対応を再確認する。 そこで質問する。 (1) 令和4年9月議会での答弁では、水害に対し、河川改修の実施や内水氾濫対策強化を進めるため、令和4年度に湯日川流域治水対策検討業務委託契約をした。1年目は流域における内水被害調査、地形調査など基礎調査をして内水被害などの特性を把握する。2年目となる令和5年度は、内水処理方式の検討、内水解析モデルの作成などを実施したのち流域の治水安全度等が確保できる施設、規模を計画すると説明があった。 ① 湯日川流域治水対策計画は確認できたが、施設、規模の計画とはどのようなものか。 ② この計画内容の地元関係者への説明予定は。 (2) 降水シミュレーションについて、基礎調査からデータ上で3Dによるモデル地形図を作成して雨を降らし、川幅を広げるとかさ上げするとかデータ上で被害の検証について、検証結果の成果及び過程は公表するとしているが、公表の予定は。 (3) 今回は神戸川沿いの被災した工場の代表者や製茶販売の代表者から話を伺い、被害は非常に深刻であることを確認した。 ① 改めて被災者全員から被害状況を調査すべきであると思うが、調査はするか。 ② 1社は冠水のため操業を断念して工場ごと移転を決定したという。何らかの支援などはないのか。			

- (4) 榛原幹線用水路からのあふれ出た水や神戸川の排水について。
- ① 榛原幹線用水路からのあふれ出た水の対応は考えているか。
 - ② 神戸川の冠水の解消は直接排水することであり、住民を災害から守ることである。坂口谷川水害対策プランは、本川水位が低かったため、ポンプ排水を主体とした整備メニューが設定された。しかしながら、湯日川流域では、本川水位が高く排水ができない時間帯に背水影響による家屋浸水が発生してる。そのため、流出抑制対策、河道改修計画、浸透対策、可搬ポンプ排水を組み合わせた流域治水対策を推進するとある。改めて、神戸川の水を直接用水に流すための水路を整備することはできないか。

4	議席番号 4 番 楠元 由美子 議員	開始予定時間 3 月 1 2 日 午後 1 時
【町民のコミュニティ活動を活性化するためのまちの取り組みについて】 町は、「豊かで活気にあふれ 心を魅了するまち 吉田町」を将来都市像とした第 6 次吉田町総合計画の賑わいづくりにおいて、県営吉田公園南側用地整備を、民間活力の活用性を探りながら、官民一体となった賑わい創出拠点の整備を進められようとしており、新たな町の魅力に期待をしております。 一方、コロナ禍によりさまざまな地域活動や伝統文化であるお祭りなどの自粛から、町民同士のコミュニケーションの場が薄くなり地域全体の勢いが弱くなっていることを心配しております。さまざまな知恵や知識、魅力的なアイデアをもった町民がもっと活躍され、共に地域を活性化することは活気にあふれるまちづくりに繋がることと強く感じております。 そのような魅力ある地域住民たちが生き活きと活躍できる場を行政が設け、地域の活動を盛り上げている近隣市町も目立ってきております。我が町は、カムカム補助金やコミュニティ活動団体が実施するための備品購入、地区集会所の建設等に対する支援などは継続的に行っておりそれも良い取り組みですが、男女問わず町民の魅力的な知識やアイデアを掘り起こす行政側からの仕掛けづくりは、まちの将来都市像実現に向けた取り組みとして必要であると考えます。 以上を踏まえ、以下を質問します。 (1) コロナ禍後、町民の地域活動になにか変化はあったのか。まちはどのように感じているか。 (2) これまでに、コミュニティ活動意識の高い町民の発掘や、町民（中学生、高校生、大学生、20 代、高齢男性なども含む）の活動意識を高めるためにまちが取り組んできたことはどのようなことか。 (3) 既存の活動団体の活気を永続的にするため、新たな活動団体の育成、活動意識の高い住民を育成するためにまちが行うサポートはどのようなものがあるのか。		

5	議席番号 1 番	大石 裕之 議員	開始予定時間 3 月 1 2 日 午後 2 時
【町長の施政方針について】 令和 7 年第 1 回吉田町議会定例会の開会に当たり、新年度に向けた施政方針並びに各種施策の方針や概要等について、町長自ら発表されました。町内の課題、近隣市町との課題、県との課題、社会的な諸問題など様々な対応を迫られる中で、令和 7 年度の大きな方針が示され、それに沿った過去最高額の 149 億 4,900 万円の予算案を今議会に議案提出されております。このことは吉田町にとって大変重要な意味を持つ施政方針になると考えます。 そこで、その内容について、以下の点について質問いたします。 (1) 災害に強く安全・安心に暮らせるまちづくりにおいて、住吉海岸防潮堤の盛土工事が来年度から始まり、土砂の搬入も夏頃から開始される予定との事ですが、その搬入の規模や運搬路・侵入路などの計画と、子どもたちなど町民への安全対策は如何か。 (2) 災害時の避難所運営において、各避難所が秩序の保たれた安全で安心な生活拠点として機能するように、それぞれの運営マニュアル作成を進め、住民主体の避難所運営体制の構築を目指すとされていますが、現在の避難所の運営マニュアルでは行き届かない部分や問題があるからだと考えます。その理由と新たな避難所運営マニュアルに反映させたいものは何ですか。 (3) 静岡市、島田市、牧之原市、川根本町と吉田町の 3 市 2 町で構成する広域消防の中で、広域消防の継続と令和 8 年度以降に適用する新たな運営計画を策定することが決定されました。その計画では、吉田町のみを管轄する吉田消防署が設置されるということです。いざ災害が起きた場合など、非常時の中心的指揮は危機管理監が担うと考えますが、前任者が退任以降、危機管理監は防災課長が兼任しているままの状態となっています。専門性を持った危機管理監の必要性についてどのように考えますか。 (4) 新たな都市計画マスタープランを本年度から 2 か年かけて策定を進めています。これに併せて、町の都市づくりを進めるに当たっての課題解決を図るため、令和 7 年度から 9 年度までの 3 か年をかけて「立地適正化計画」を策定していくとのことですが、この計画の概要や考え方などの説明を願いたい。			

- (5) 町内に住む外国人の方のため、「吉田町はじめてのにほんご教室」を本年度から吉田町国際交流協会と連携し実施されています。令和7年度も継続して進めて行くとのこと。この日本語教室は多文化共生のベースとなるもので、続けていくことに意味があると思いますが、今後も増え続けるであろう外国人住民との様々な課題の解決の為に、次のステップも考えて行かなければならないと思いますが、何か考えているものはありますか。
- (6) 自治体DXの推進における行政手続きのオンライン化の中で、総合体育館、小中学校の体育館やグラウンド、中央公民館など、オンラインで施設の空き状況の確認や予約を可能にし、支払いもクレジット決済が可能となる公共施設予約システムを導入し、これに併せて、鍵を借りたり返したりする必要のない電子キーの導入も進めて行くとのことですが、今後の進め方と実施スケジュール、町民をはじめとする関係者への周知方法などは、どのように進めて行きますか。
- (7) 中学校における部活動の地域移行について教育委員会では、吉田中学校の生徒にとって望ましい部活動環境の構築と、教職員の働き方改革の両方の実現を図るために、昨年度「吉田町部活動の在り方協議会」を設置し、協議を重ねています。部活動の地域移行について、人口がある程度存在するいわゆる都市部ではない地域で、生徒たちにも教職員にも良い理想的な環境や体制とはどういうもので、そこにどう近づけようとしているのか。現状とお考えをお聞かせください。